

## 令和2年度 高等学校OPENプロジェクト実施報告書(3年次)

研究指定校	北海道八雲高等学校	教育局	渡島教育局
-------	-----------	-----	-------

1 研究主題		「SDGsを踏まえた魅力的な町づくり」～地域社会の活性化による若者の定着率を高める～													
2 研究実践内容		<table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>実施内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月</td> <td>・本校生徒のピアサポートトレーニングを開始。</td> </tr> <tr> <td>5月</td> <td>・八雲町商工観光労政課と「まちづくり会社」に関する打合せを実施。</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>・町内中学校とのピアサポート交流を実施。(コロナ禍のため動画配信で実施。)</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>・ワークショップ型インターンシップを実施。9月に実施できなかったインターンシップに替えて、町内から企業等の担当者を招いて校内に8会場を設置し、生徒がそれぞれの会場で勤労観・職業観について考える取組を行った。(八雲町・八雲町教育委員会と連携、2学年「総合的な探究の時間」に配当、2日間、計4時間)</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>・高等学校OPENプロジェクト全道ミーティングに参加。(札幌) ・「八雲学(地元文化・産業等の理解を深める)」の一環として地域文化体験ワークショップを実施。(八雲町・八雲町教育委員会と連携、3学年「総合的な学習の時間」2時間)</td> </tr> </tbody> </table>		月	実施内容	4月	・本校生徒のピアサポートトレーニングを開始。	5月	・八雲町商工観光労政課と「まちづくり会社」に関する打合せを実施。	9月	・町内中学校とのピアサポート交流を実施。(コロナ禍のため動画配信で実施。)	10月	・ワークショップ型インターンシップを実施。9月に実施できなかったインターンシップに替えて、町内から企業等の担当者を招いて校内に8会場を設置し、生徒がそれぞれの会場で勤労観・職業観について考える取組を行った。(八雲町・八雲町教育委員会と連携、2学年「総合的な探究の時間」に配当、2日間、計4時間)	12月	・高等学校OPENプロジェクト全道ミーティングに参加。(札幌) ・「八雲学(地元文化・産業等の理解を深める)」の一環として地域文化体験ワークショップを実施。(八雲町・八雲町教育委員会と連携、3学年「総合的な学習の時間」2時間)
月	実施内容														
4月	・本校生徒のピアサポートトレーニングを開始。														
5月	・八雲町商工観光労政課と「まちづくり会社」に関する打合せを実施。														
9月	・町内中学校とのピアサポート交流を実施。(コロナ禍のため動画配信で実施。)														
10月	・ワークショップ型インターンシップを実施。9月に実施できなかったインターンシップに替えて、町内から企業等の担当者を招いて校内に8会場を設置し、生徒がそれぞれの会場で勤労観・職業観について考える取組を行った。(八雲町・八雲町教育委員会と連携、2学年「総合的な探究の時間」に配当、2日間、計4時間)														
12月	・高等学校OPENプロジェクト全道ミーティングに参加。(札幌) ・「八雲学(地元文化・産業等の理解を深める)」の一環として地域文化体験ワークショップを実施。(八雲町・八雲町教育委員会と連携、3学年「総合的な学習の時間」2時間)														
3 連携会議の開催内容		<table border="1"> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>令和2年5月26日(火) 16:30~17:30</td> </tr> <tr> <td>出席者</td> <td>八雲町商工観光労政課藤牧課長、近藤主事、本校校長、本校教頭</td> </tr> <tr> <td>協議内容</td> <td>・2年次の活動の反省 ・3年次の取組について</td> </tr> <tr> <td>指導・助言を受けた内容</td> <td>・「まちづくり会社」の趣旨・実施計画について町から説明 ・今年度以降も八雲町と本校が連携し、町の活性化と本校への支援となる取組を行っていく。</td> </tr> </tbody> </table>		第1回	令和2年5月26日(火) 16:30~17:30	出席者	八雲町商工観光労政課藤牧課長、近藤主事、本校校長、本校教頭	協議内容	・2年次の活動の反省 ・3年次の取組について	指導・助言を受けた内容	・「まちづくり会社」の趣旨・実施計画について町から説明 ・今年度以降も八雲町と本校が連携し、町の活性化と本校への支援となる取組を行っていく。				
第1回	令和2年5月26日(火) 16:30~17:30														
出席者	八雲町商工観光労政課藤牧課長、近藤主事、本校校長、本校教頭														
協議内容	・2年次の活動の反省 ・3年次の取組について														
指導・助言を受けた内容	・「まちづくり会社」の趣旨・実施計画について町から説明 ・今年度以降も八雲町と本校が連携し、町の活性化と本校への支援となる取組を行っていく。														

#### 4 研究の成果と課題

##### (1) 目的の達成状況

- 平成30年度から実施しているOPENプロジェクトの大きな成果は、地元の魅力について生徒が考える機会が増えていることである。今年度も地域の特産物を生かした「物産振興事業」を継続実施するため、総合ビジネス科の「課題研究」で八雲町、町内の事業所及び地域おこし協力隊に協力を依頼し、商品開発に取り組んだ。
- 昨年度の反省にもあった、地元の特産物をアピールできる商品開発を具体化することが今年度の目標であったが、企業と連携して市場調査を行う機会が思うようにもてなかったことから取組の成果につなげることができなかった。

##### (2) 目標の達成状況

- 今年度の完成を目標としていた、本校生徒の作成による八雲町内の観光スポットをまとめた地図が、予定通り出来上がり、「ディスカバリーやくも」と名付け、町内の主要スポットで観光客へ配布できた。本取組では、生徒自らが取材し、試行錯誤しながら地図を完成させたことから、達成感及び充実感を得ることができた。
- 観光マップ作成は順調に進んだが、それを利用する八雲町への観光客が、コロナ禍により激減し、思うように配布することができなかった。今後、完成した観光マップをどう活用するかについて検討する。

##### (3) 実践研究の規模

- 物産振興事業の商品開発については、総合ビジネス科の課題研究・総合実践を活用し、昨年度に引き続き新商品の開発、開発商品の検証、改良についての学習を行った。これまで学んできたビジネスに関する知識を実践の中で活用する学習とすることができた。
- 本プロジェクトの目的や内容について、本校生徒に定着しつつあるが、本事業終了後も高校が継続して地域に貢献し、地域の活性化につなげる取組となるように考え、継続することが大切である。

##### (4) 研究成果の普及

- 本校ホームページに「高等学校OPENプロジェクト」専用ページを作成し、これまでの取組について発信した。
- 学校だよりを取組を掲載し、町の全戸、各中学校へ配布することにより活動内容や成果を地域に発信した。
- 物産振興事業については、新聞に取り上げられ、町内外に発信することができた。

##### (5) 実践研究内容

- ピアサポート交流が、中学生に好評であった。交流により中高の校種間連携を密にすることができた。
- 次年度に向けて、オンライン等の活用による活発な取組を検討する必要がある。

##### (6) 地域みらい連携会議

- 今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、開催が極めて困難な状況だった。

5 プロジェクトの達成状況	
(1) 【評価の観点】 本道の基幹産業を支える人材や、地域を守り支えていく人材の育成について	
<p>(評価)</p> <p>本道の基幹産業や地域を支える人材の育成につながる取組となった。</p>	
<p>(評価した理由)</p> <p>農林漁業出前講座や物産振興事業、八雲を知る学習会を通して人材育成の一助とすることができた。</p>	
(2) 【評価の観点】 地域の自治体や企業、産業界等の関係機関との協働について	
<p>(評価)</p> <p>地域の自治体や企業、産業界等の関係機関と協働した取組を実施したが、成果や課題の共有には至っていない。</p>	
<p>(評価した理由)</p> <p>まちづくり会社の物産振興事業により、八雲町・事業所と連携し、物産品の改良に向けたアイデアを考えることができた。</p>	
(3) 【評価の観点】 生徒の主体性について	
<p>(評価)</p> <p>生徒は、地域社会の一員としての主体性を持って取り組むことができている。</p>	
<p>(理由)</p> <p>プロジェクトに対するアプローチの方向性について共通理解を図り、それぞれの内容について生徒独自の発想を持って取り組むことができた。</p>	
(4) 【評価の観点】 地域課題の解決状況について	
<p>(評価)</p> <p>取組により、地域課題の解決につなげることができた。</p>	
<p>(理由)</p> <p>昨年アンケート結果を参考に「八雲を知る」という観点では一定の成果が出ており、郷土愛の醸成の一助とすることができた。</p>	
6 今後の取組	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後は、今年度、八雲町が本格的に立ち上げた「まちづくり会社」に本校生徒を直接関わらせることにより、地域課題の解決に取り組むことで、研究の目標である「地方創生」と「若者の地元への定着」、「学校の魅力の地域発信」を達成するため、今後も地域の団体と連携を図りながら取組を推進する。</li> <li>・ 「ディスカバリーやくも」の第2弾となる取組を企画し、新しい生活様式にも対応した地域の魅力発信方法を町に提案することにより、町と一層協働して実践していく。</li> </ul>	

## 7 参考資料

### (1) 「農林漁業出前講座」



令和2年11月27日（金）

八雲町で農林漁業に従事している方々に講演いただき、仕事に就くまでの経緯や、現在の仕事内容などについて話を聞いた。

質疑応答で、生徒は地元の基幹産業について、自分の将来と地域との関わりを意識しながら意欲的に質問をしていた。事後学習についても、仕事の内容や労働環境などに対して具体的な問題意識をもって考えている様子が見られた。

### (2) 「地域文化体験ワークショップ」

・「北海道新聞」（令和2年12月25日（金） 夕刊）



令和2年12月8日（火）

八雲町内で活躍している方と接することで、地域とのつながりを深め、地元の文化や産業等の理解を深めることを目的としたワークショップを実施した。

生徒は、楽しみながら地域の伝統文化について学んでいた。